

CROSSTALK

若手職員クロストーク

4人の先輩たちに
岐阜県で働く魅力について聞きました。

この景色や暮らしが
ずっと続いてほしいから、
ここで働くことを選んだー。



行政

健康福祉政策課
屋敷 主事

配属歴

R3 採用 飛騨保健所
R5 現所属

入庁4年目

行政

市町村課
山下 主事

配属歴

R4 採用 東濃県税事務所
R6 現所属

入庁3年目

福祉

中央子ども相談センター
安藤 主事

配属歴

R2 採用 現所属

入庁5年目

建築

中濃建築事務所
坪井 技師

配属歴

R3 採用 建築指導課
R6 現所属

入庁4年目

暮らしを支えられる仕事

ー 岐阜県を選んだ理由

安藤●高校時代から子どもたちの笑顔につながる仕事がしたいと「児童相談所」、岐阜県では「子ども相談センター」といいますが、そういった場所で働くことを夢見ていました。採用試験に合格したときは「地元で子どもたちのために働くことができる！夢がかなった！」という気持ちですごくうれしかったです。

山下●学生時代は学校事務職員を目指していましたが、教育制度などを学ぶうちに制度決定そのものにかかわる仕事に就きたいなど考えるようになり、行政職を志望するようになりました。隣県在住

ですが、子どもの頃から自然が好きな家族によく岐阜県につれてきてもらっていたので、この景色や暮らしがずっと続いてほしいという気持ちから、ここで働くことを選びました。

坪井●岐阜県の日本古来の美しい景観には初めて来た方にも懐かしさを感じさせる、そんな魅力がありますよね。私は、建築職として、そういった景観、街並みを守りたいと思っています。子どもの頃から建物や設計図を見るのが好きで、将来は建築士として活躍できればいいなと漠然と考えていましたが、学生時代のインターンシップがきっかけで県の建築職になりたいと強く思うようになりました。建築部局の4つの部署を体験させてもらい、県有施設の管理や設計をするだけと思っていた建築職がさまざまなフィールドで活躍している現場を目の当たりにして、建築の知識を活かして県民の暮らし

を支えられる価値のある仕事だと気づかされました。幅広い役割を担う建築行政の仕事を経験できたことが就職活動のターニングポイントになりました。

屋敷●私は就職活動の時期になってもやりたいことが定まらず思い悩んでいたんです。改めて自分の興味・関心のあることを考えてみて、真っ先に思い浮かんだのがアルバイト先で障がいのある方と働いたときのことでした。福祉の就労支援事業だったと思うのですが、その方が生き生きとウエイターの仕事をされていて、それを支える福祉事業所の方がいらして。こうやって、障がいのある方をサポートする仕事があるんだな、素敵な仕事だなと感じたことを思い出したんです。それで福祉分野の仕事に興味がいくように。他にも専攻している外国語を活かして観光の仕事もいいなと思ったり、かな

かひとつに決められなくて。いろいろな仕事を調べていくうちに、県の行政職なら色々な分野に携わりながら地元に貢献できていいなと思うようになりました。それが大学3年生の冬で。そこから公務員試験対策をはじめました。

経験が自分の財産になる

ー イマの仕事

屋敷●部署内の予算管理や会計事務などの仕事をしています。入庁当時はコロナ禍で、配属された保健所は医師や保健師などの専門職がとても忙しく、私も少しでも感染者を減らすことができるよう目